



2学期のスタート

校長 川村 和人

暑い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。全校児童が、大きな事故もなく、元気な顔を見せてくれました。今年の夏は、八王子市でも最高気温の新記録がでるほどの暑さでした。突然の豪雨や猛暑など例年に比べると天候は不安定で、先月も九州・西日本の豪雨による被害で多くの方が、被災をされました。改めてお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、私の夏の楽しみの一つは、甲子園で開かれる全国高校野球選手権大会です。応援しているチームが勝ち進んでいくのを見るのも楽しみですが、それ以上に楽しみなのが、「試合」試合の精一杯のプレーとともに、ベンチの選手たちを支えたり大きな声出しによる応援を送ったりしている、チームメイトや仲間、家族、学校関係者の方々の姿です。今年の試合でも印象に残る素晴らしい試合がいくつもありました。特に最後まであきらめずプレーをし続けたり、スタンドで大きな声援を送り続けたりする姿には、「コロナ禍」にあっても懸命に努力してきた人々の力強さに重ね合わせた方々も多かったのではないのでしょうか。

8・9回からの大反撃や大逆転劇は、試合の結果を超えて見る者すべてに【野球は筋書きのないドラマ】という表現では言い尽くせない感動を私たちに与えてくれます。選手たちの「夢」に向かって戦い続けるエネルギーは、自分を大切にする心がその中心にあって、自分の夢の実現に向かい、日々の辛い練習を乗り越えてきた強靱な意志から生まれてきたのだらうと思います。「夢」に向かって努力し続けることを支えてくれる周囲の人々や、環境に感謝するという気持ちが「感動」をより強く感じさせるのだと思いました。

また、私は、甲子園出場を目標に頑張りぬいたものの、地方大会で涙をのんだ高校生たちにも感動しました。あるテレビ番組の中で、「甲子園には行けなかったけど、最高の仲間と3年間、甲子園を目標に野球ができて最高でした。これからも、人生の友達でいてください。」「(両親へ)野球をやらせてくれて、ありがとう。」という言葉に心打たれました。

子どもたちが困難を乗り越える力を奪わないよう、周りの大人は注意深く育てていかなければなりません。物をすぐ与え、何でも許し、甘やかし続けていけば、子どもの伸びる芽は簡単に摘み取られてしまうでしょう。認め、励まし、その時々で注意深い目を向け、寄り添いながら接していく大人の存在が必要です。毎日の小さなことを大切にするところから大きな夢への長い道のりの一歩が始まります。辛さに耐えて、頑張り通す地道な努力が大きな夢の実現につながるのだとあらためて感じました。

2学期は、5年生姫木平移動教室、各学年の校外学習、学校公開、学習発表会など大きな行事が予定されています。行事を通して子どもたちは一段と成長していくと思います。行事に追われるのではなく、一つ一つの活動のねらいをしっかりと押さえながら、子ども一人一人の成長が見取れるよう、丁寧な教育活動を心がけていきたいと思っています。そこで、子どもたちのよさを認め、励まし、学習に取り組んでいくために、以下のような点を参考にできればと、考えてみました。

- G I G A スクールの新しい学びに取り組む意欲と学びを創造していく力
- より良い生活のために取り組むべき課題を自分で見付ける力
- 課題の解決や改善に向けて自分で考え、学び続ける力
- 自分の考えを他の人に理解してもらえるよう表現できる力
- 学習に前向きに取り組む、主体的に判断し行動できる力
- 自分の考えや判断と同様に、他の人の考えや判断を尊重できる力
- 一つの目標に向かって友達と協力してやりぬく力



2学期の教育活動を充実したものにできるよう教職員が一丸となって臨んでまいります。ご家庭にあってもまずお子さんのやる気を大切にしながら様々な力を引き出すような声かけをお願いいたします。2学期も引き続きご理解ご協力をよろしく願います。

